

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100170		
法人名	有限会社与苑		
事業所名	グループホーム与苑		
所在地	宮崎県宮崎市大字広原312番地1 (電話) 0985-39-5333		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月2日	評価確定日	平成21年6月29日

【情報提供票より】 (平成21年5月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年4月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤16人, 非常勤2人, 常勤換算5.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年5月19日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	3	要介護2	6
要介護3	6	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 89.9歳	最低 60歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	すずき内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の中心地から北西方向のやや郊外で、民家や農家が点在する、いまだ田園風景が残る静かな環境の中にホームは立地している。隣接してホームのビニールハウスの農園があり、職員と利用者が一緒に作業をして季節の野菜を育てている。開設後まだ歴史の浅いホームであるが、管理者を中心に多くの課題に熱意を持って取り組み、成果をあげている。職員も定着してきており、活気があり、利用者の表情も明るく穏やかに暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の定期的な開催、家族会の設置、毎月ホーム便りの発行、利用者と一緒に食事、消防署の協力を得ての防災訓練の実施等、全員で取り組み多くの課題が改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が中心に作成し、その後職員も参加して検討している。管理者は、評価の意義や目的を全員に伝え、職員も理解しており、具体的な改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は軌道に乗り、2か月に1回定期的に開催されている。会議では、運営状況の報告や地域消防団との交流等、具体的な話し合いが行われ、参加メンバーからの意見を積極的にサービスの向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時にできるだけ声をかけ、意見や不満が表せる雰囲気づくりに努めている。また、昨年9月より家族会が設けられ、家族同士の話し合いの中から意見や不満を運営に反映させる機会が多くなっている。介護相談員も受け入れ、ホーム便りも発行し、その中で職員の異動等も報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	苑行事の七夕祭り、敬老会、クリスマス会には地域ボランティアを招いたり、近くの児童館で行われた餅つきの見学に行く等、地域との交流に努めている。また、積極的に地域の行事の情報収集にも努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所全体としての基本的な理念はあるが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスの理念とはなっていない。	○	住み慣れた地域の中で利用者が安心して暮らし続けることができるよう、地域密着型サービスの意義と役割を全職員で話し合い、事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや職員会議で、基本的な理念について話し合い、共有して実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	苑行事の七夕祭り、敬老会、クリスマス会には、地域ボランティアを招いたり、近くの児童館で行われた餅つきの見学に行く等、地域との交流に努めている。また、積極的に地域の行事の情報収集に努めている。	○	地域自治会への加入を検討し、地域の一員として老人会との交流や地域の行事等に積極的に参加し、更に交流を深めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が中心に作成し、その後職員に回覧して検討している。管理者は、評価の意義や目的を全員に伝え、職員も理解している。また、外部評価の結果については全員で検討し、改善に向けて積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、包括支援センター、民生委員、住吉地区社協、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や地域消防団との交流等、具体的な話し合いが行われ、参加メンバーからの意見を積極的にサービスの向上に生かしている。	○	運営推進会議に、地域の代表等を加えると更に充実すると考えられるので検討してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとは、研修会等を通じて運営状況等の課題について相談やアドバイスを受けている。また、市の担当者からも指導を受けることがある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。また、本年度からホーム便り（与苑便り）を毎月発行し、異動等も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にできるだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、昨年9月から家族会が設けられ、家族同士の話し合いの中から意見や不満を運営に反映させる機会が多くなっている。介護相談員の受け入れも行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしており、現在は職員も安定し利用者へのダメージが少なくなり、穏やかに生活している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、法人内・外の研修に積極的に参加している。また、研修の結果は復命書を作成し、全員に報告し共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。また、同業者相互の見学会等も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に体験入居をしてもらったり、職員が自宅や施設を訪問し、信頼関係を深めながら徐々にホームの雰囲気になじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対して、一方的なサービスを提供するのではなく、その日の体調、気分等に配慮して臨機応変に対応している。また、利用者から料理や野菜づくり等を学び信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日々の行動や表情、会話の中から希望や意向を把握できるように努めている。また、家族や関係者の情報も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族と十分話し合い、職員の気づきや意見、アイデアを反映した利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、利用者や家族の意向や状況を確認・評価して、介護計画は3か月に1回の見直しを行っている。状況の変化がある場合は、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や外泊、外出等柔軟に支援している。また、共用型認知症対応型通所介護の指定を今春受けたので、今後取り組む予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの掛かりつけ医を基本としているが、ほとんどの利用者が協力医を利用している。2週間に1回の往診があり、気軽に相談や受診ができる体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、看取りに関する指針を本人や家族に説明して同意を得ている。看取りも過去1回行っており、関係者全体で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように、細心の配慮をしている。職員の言葉かけは丁寧である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるが、利用者の意向やその日の体調に配慮しながら、できるだけ自分のペースで暮らせるように柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みに配慮しながら、ホームの畑の野菜や旬の食材を採り入れたメニューを工夫し、利用者と職員が一緒に同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。また、毎週水曜日に利用者と職員が一緒に料理作りを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週に3回としているが、希望があればいつでも入浴ができるように支援している。入浴時間は希望に沿って午前と午後に分け、ゆっくりと気持ちよく楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが有する力の範囲で、調理の手伝いや掃除、洗濯物たたみ、ホームの畑の手入等、利用者の負担にならない程度で支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの畑に野菜の収穫に行ったり、近くの公園や近隣の散歩、ドライブ等できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室には鍵をかけていない。管理者や職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回（1月・8月）防災・通報訓練を実施している。また、マニュアルも作成し、地域住民にも協力を働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は、毎日チェック表で管理している。旬の食材を採り入れたバランスの良い食事の内容となっており、その方の状態に合わせて、刻みやミキサー食で支援している。	○	栄養士による専門的な観点から、一度、栄養バランス等の指導を受けてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は全般的に広々として余裕があり、明るく家庭的な雰囲気がある。食堂のテーブルには季節の花が飾られ、居心地よく生活できるように工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や寝具、仏壇、思い出の写真等が持ち込まれ、利用者が落ち着いて生活できるよう本人や家族と相談しながら工夫している。		

※  は、重点項目。